

永観堂 第三回 俳句コンテスト

◆最優秀賞1句

念仏の張りたくましき朝の秋

はぐれ枳餅

島根県

季語「秋の朝」は、残暑の厳しい頃ならば、過ごしやすい爽やかさを感じさせる朝であり、秋の深まりとともに、肌寒さを感じさせる季語です。永観堂のみずみずしい木々に射し込む朝日のように、力強い念仏が、勢いに溢れて聞こえています。「張りたくましき」とは、低音域の豊かに響き渡る声でしょう。澄み切った秋の朝の大気に、念仏がたくましく響いています。

◆優秀賞5句

臥龍廊足もと全て青楓

上村嘉代子

静岡県

龍の体の中を歩いて行くような気分になるという永観堂の木の階段「臥龍廊」。山の斜面に沿ってのぼる階段の「足もと」には、楓の若葉が青々と涼し気に茂っています。「全て」が初夏の美しい緑です。

錦雲橋越えて紅葉の国となる

あみま

長野県

京都でも屈指の紅葉の名所として知られる永観堂。庭園の放生池に浮かぶ弁天島をめざして「錦雲橋」を渡ります。弁天島はもちろん、水面に映る紅葉も、また、庭園の紅葉も美しく、まさに「紅葉の国」です。

月を得て古刹の鴟尾の翳ひかる

大館信恵

埼玉県

澄み切った秋の空気の中、美しい月が古刹永観堂を煌々と照らしています。「鴟尾」とは、寺院建築などの屋根の大棟の両端につける飾りのこと。本体ならば暗くなるはずの翳までも光っているようです。

金鈴と紛ふ實梅や寺の庭

古澤夕起子

京都府

永観律師が貧しい病人に施したと言い伝えられる悲田梅の「實梅」でしょう。梅雨の晴間の一瞬の陽光を浴び、浅みどり色の実が「金鈴」に見えたのです。金の鈴とは、「寺の庭」なればこそその説得力です。

永観のゆつくり淡くひかる梅

迫久鯨

東京都

釈迦堂前の悲田梅が美しい花を咲かせ、春の光を受けながら「ゆつくり淡くひか」っています。いかにも優しい梅の花の光に、弱き者へ寄せる永観の深い思いやりの心そのものを感じているのでしょうか。

◆特別賞3句

みかえりや月光すべり落つること

浦野紗知

埼玉県

みかえり阿弥陀と呼ばれている永観堂のご本尊。そのお姿は、思いやり深くまわりを見つめていらっしやる慈悲のお心そのものです。そのたおやかさを、まるで月光が「すべり落つる」ようだと感じています。

底冷えを鈍き音叉のごと読経

染井つぐみ

兵庫県

千百年以上の歴史を持つ古刹、永観堂禅林寺。歴史の重みを感じさせるその「底冷え」を感じつつ、「読経」の音が銀色の音叉の響きのごとく、本堂の底を震わせながら冴えわたっていきます。

仏の名呼ぶ唇のしんと冷ゆ

稲畑とりこ

秋田県

阿弥陀仏の極楽浄土へ往生することを期して、一心に唱える南無阿弥陀仏。仏の名を呼び続けている唇に、ふと秋の「しんと」した冷えを感じました。これから深まってくる秋の先には冬が待っています。

◆佳作100句

仏像に金の途切れぬ小春かな

水野結雅

愛知県

去年今年墨の香満つる阿弥陀堂

小林茜

群馬県

紅葉狩の千人捌く寺男

斎藤浩美

愛知県

春暁や行道衆の息真白

小林秀祐

埼玉県

想い来た赤より紅い寺紅葉

保

静岡県

弥陀見そなはせ菩提子の散るスピ

中川絹子

京都府

鐘の音の沁みたる紅葉惜しみけり

難波勲

山梨県

病収らず雷乃収声

中村倚久子

京都府

錫杖の響く夕寺片白草

志津田明子

京都府

十年恋ふ阿弥陀に会ひぬ小六月	間庭みち	兵庫県
御仏も格子の奥や京寒し	北村純一	神奈川県
夏蝶やいらかを越えてもどり来る	岩崎脩二	兵庫県
食べて寝て凡夫往生桐一葉	ちびつぶぶどう	大阪府
いにしへの恋の呪文の紅葉降る	近藤國法	宮崎県
寺紅葉われらの酔いをさましけり	のんちゃん	東京都
放生池一輪光る彼岸花	森川勇	静岡県
戒名に平仮名無くて寺もみじ	舘健一郎	茨城県
禅林寺落葉しおりに歎異抄	荒木光弘	東京都
透析やずしりと重し曼殊沙華	立松代子	愛知県
ポツンと烏(う) 永観堂の今朝の秋	孤聴	埼玉県
回廊を進む人々蟬しぐれ	川上昭子	富山県
御仏に凍てし心もほどけゆく	中澤早苗	長野県
ひがし山帯留めきりり初仕事	雅徳	兵庫県
御名となふ紅葉のあかき風の中	小畑律子	山口県
南天や雪晴れも良し永観堂	りうこ	奈良県
紅葉散るひとりよがりの坐禅かな	いたまきし	静岡県
秋近し歳月かほる虫干会	さとう菓子	東京都
姉に似る阿弥陀八月の横顔	大西どもは	静岡県
猫の声永観堂にみぞれ降る	市川淳美	兵庫県

みかえりの弥陀へ十念マスクして	樋口俊子	兵庫県
冴える月光落して永観堂	鈴木倭文子	東京都
御堂越すもみじの大樹風かすか	鈴木義久	東京都
念仏のやみて桜のささめきぬ	藤田留実子	秋田県
翳雲うねる組木の臥龍廊	宮本徳美	愛媛県
カラカラと落葉が走る白い杖	古根洋子	京都府
梅つぼみお輪鳴らして座禅かな	戸村達夫	千葉県
夕の雨濡れて踏まれる紅葉かな	坂東典子	徳島県
涅槃図に身じろぎもせぬ園児かな	榎野実	兵庫県
若楓エレベーターは祈り乗せ	音羽凜	東京都
春満月や足裏に龍の脈	陽光	愛知県
みかえりの影やわらかし日脚伸ぶ	けーい〇	兵庫県
念仏を唱え行進蟻の道	田中正博	東京都
春近し光独りの身に余る	海瀬安紀子	静岡県
夫の手は何より恋し蔦紅葉	万里の森	長野県
両の手に御降受けし永観堂	くにたろう	三重県
煤払ふ阿弥陀如来の目の優し	小笹いのり	山口県
水鳥や極楽橋を揺らしおり	甘酢	神奈川県
筆先を解き寒夜の写経かな	加田紗智	高知県
紅葉濃し獅子の舌頭ちりちりす	ぐ	神奈川県

峰雲や読経に動く喉仏

高橋寅次

東京都

花びらが鱗の如し臥龍廊

大槻税悦

兵庫県

初春の光を撚りて阿弥陀の手

川越羽流

神奈川県

冬ざれや阿弥陀如来の肩に煤

石井周子

北海道

母さんが手を離さない冬紅葉

花紋

愛媛県

龍の背を越へて阿弥陀の頬へ南風

河野しんじゆ

東京都

無職なり阿弥陀微笑む春の昼

くう

福岡県

凍蜂のまだ近づかぬ阿弥陀かな

下村修

神奈川県

暖かき手と手に集ふ晶子の碑

久留里61

広島県

千百余年紅葉絶やさぬ古刹かな

鮎川溪太

東京都

風光る伸び縮みして臥龍廊

石上美紀雄

大阪府

蛇落ちてほどけて去りぬ緑の下

蓼蟲

愛媛県

でつぷりと御前座布団冬暖か

山名凌霄

京都府

春愁の足音笑ふ阿弥陀さま

ぼたんのむら

広島県

「おそし」なる声はふくよか梅ふふむ

色葉二穂

栃木県

哀しみを逆さに映す紅葉池

藤井もも

広島県

十六夜や見返り弥陀の思惟の影

武井日出子

愛媛県

月今宵仏の御手は咲むごとく

石塚彩楓

埼玉県

紅葉にため息やまぬ臥龍廊

砂芽里

静岡県

雨もよし紅葉のじゅうたん踏みながら

中村宗一

奈良県

水底の小石涼しき永観堂	穂積天玲	愛媛県
紅葉積む罪の深さや禅林寺	若狭展望	福井県
春風や見返る佛の母に似て	佐藤香珠	滋賀県
苔厚き石の仏に霧時雨	寒月	大阪府
秋蛩阿弥陀堂行エレベーター	桜井教人	愛媛県
大晦日悟りに遠き鐘を聞く	ちくりん	神奈川県
青苔の句碑の御文字包みけり	そまり	愛媛県
初盆にじゃらんじゃらんと井戸が泣く	貴聖	静岡県
懇懇と螺髪に絡む蟬の声	石井彩音	茨城県
秋時雨永観堂で待ちぼうけ	浦城亮祐	奈良県
紅葉に空奪はれし永観堂	中村ケンジ	滋賀県
方丈の硝子に歪み若葉雨	巴里乃孀	神奈川県
ありがたき鉄鉢の飯凍る朝	自灯	京都府
精一杯しづかに夏を閉じゆけり	梓弓	三重県
夏椿我連れたまへ阿弥陀仏	松平美枝子	愛知県
花びらを畳みてまたむ花菖蒲	ほうすい	大阪府
あめんぼの波紋に添うや池の鯉	木染湧水	広島県
初盆の貰い煙草に薄荷の香	寺津豪佐	島根県
境内は澄みつつ青葉深めをり	木幡忠文	東京都
秋天に届きそうなる臥龍廊	卯之町空	大阪府

念仏に吞まれてひとつ蟬の声	岩中幹夫	岡山県
幾度の時雨を抜けて禅林寺	恵子	神奈川県
小鳥来る寛解の日の臥龍廊	新濃健	東京都
梵鐘の音を夕焼けが追いかける	緑木	東京都
春曙なる御堂の空は鴝羽色	日青美	愛媛県
6Pのチーズ小さき花の朝	加茂亘	京都府
冬仏小さき者を振り返り	おのみどり	香川県
春愁の龍のあばらを渡りきる	木原トモ	石川県
木枯や御仏飾る薄衣	木村隆夫	埼玉県
永観堂蕨を叩く春霞	羽住玄冬	東京都
子育てと介護のはざまやもみじ狩り	猿田里香	静岡県